

高等学校 地理歴史科 日本史B

1 日時

平成 年 月 日 () 第 限

2 学級

第3学年 組 名 (男子 名, 女子 名)

授業態度はおとなしいが、学習には前向きで真剣である。ほぼ全員が出された課題を提出し、小テストの取組もよい。

3 単元

「世界の中の日本 ～幕末、三河の偉人たちが見た世界と日本～」

4 単元の目標

我が国と外国との交流や相互理解等に着眼して、三河の偉人が世界をどう見ていたかについて追究させる。世界史の中における日本史という認識をもち、その人物の果たした役割や生き方とかかわらせて、幕末における文化的や政治的寄与について考察させる。

5 評価規準

(1) 関心・意欲・態度

欧米諸国のアジア進出や学問・思想及び産業の新たな展開に着目して、自分の郷土の人物や歴史に対する関心を高め、事象を身近に意欲的に考えようとしている。

(2) 思考・判断

世界史的視野に立って、三河の偉人の生きた時代の特色や変遷を多角的に考察し、偉人の業績価値を判断している。

(3) 資料活用の技能・表現

三河の偉人に関する資料を活用するとともに、考察した過程や結果を適切に表現している。

(4) 知識・理解

幕末から明治初期について、世界史的視野から事象を把握し、基本的知識を身に付けている。

6 指導計画 (4時間)

	主な学習内容と ねらい	主な学習活動	評価の方法
1 時間 目 導 入	幕末から明治に活躍した三河の偉人を知る。 1 渡辺華山 2 大給松平 3 岩瀬忠震 4 永井尚志 5 福谷敬吉 6 大給 恒 身近な三河に興味関心を高めさせる。	1 渡辺華山を例に引き、欧米列強が市民革命や産業革命を成功させて植民地や商品市場を求めてアジア進出してきた歴史的背景を確認する。シーボルトやケンペル、日本の漂流民などの例も知る。 <関心・意欲・態度> 身近な三河について興味関心を高めることができたか。 2 「大給松平」を調べ学習の事例として挙げ、県総合教育センターのコンテンツ「愛知の郷土史、偉人、祭り・伝統産業」を利用して、調べ方の手順を確認する。 3 「三河の偉人」を調べるグループに分かれる。 【渡辺華山・岩瀬忠震・永井尚志・福谷敬吉・大給 恒】 <資料活用の技能・表現> 「愛知の郷土史、偉人、祭り・伝統産業」を利用し、調べ学習を進める手順や方法を理解できたか。	・発言内容 ・発言内容 ・ノート内容
2	前時に挙げた人物を調べる。 グループ内で協力して	1 グループ内で調べ学習の分担や役割を決める。 2 幕府や日本に与えた影響を調べ、グループ内で意見を出し合う。	

・ 3 時 間 目 展 開	調べ学習を進めるために適切なコミュニケーションをとらせる。 グループ内で発表させる。 相互評価させる。	< 関心・意欲・態度 > 協力しあう姿勢がとれたか。 適切なコミュニケーションがとれたか。	・ 発言内容 ・ 活動内容 ・ 提出ノート内容 ・ 相互評価表内容 ・ 生徒自身の評価表内容 ・ 活動内容
		< 思考・判断 > 激動の時代、日本の将来を考えて行動できた人物の評価を的確に発表することができたか。	
		3 自分が調べられなかった内容や視点等を相互に評価しあう。活動内容をまとめ、クラス発表の準備を進める。 (発表者・司会・記録者・質問に対する資料整理など)	
		< 資料活用の技能・表現 > 「愛知の郷土史、偉人、祭り・伝統産業」や事前に準備した図書・資料を利用し、調べ学習を進めたか。	
4 時 間 目 ま と め	協力して発表する。 1 渡辺崋山 2 福谷敬吉 3 岩瀬忠震 4 永井尚志 5 大給 恒 三河の5人の活動を総括することによって、幕末から明治への激動期の日本近代化のプロセスを概観させる。	1 グループごとに協力して、業績などを発表する。	・ 発言 ・ 机間指導 ・ 提出レポート内容 ・ 小テスト
		2 質問事項について、グループ内で調べた内容を各生徒が点検し、答える。	
		3 他のグループの活動や内容について、評価する。 (自分たちのグループが調べきれなかった時代背景や影響、新たな視点などをお互いに評価しあう)	
		< 思考・判断 > 世界史的視野に立って、三河の偉人の生きた時代の特色や変遷を多角的に考察し、判断したか。	
		< 知識・理解 > 幕末から明治初期について、世界史的視野から事象を把握し、基本的知識を身に付けたか。	

7 展開例 (1 / 4 時)

(1) 本時の目標

- ・ 単元を課題学習「世界の中の日本 ～幕末、三河の偉人の見た世界と日本～」として位置付け、我が国と外国との交流や相互理解などに着目させて、偉人たちが世界をどう見ていたか、近代日本をどう築いたかについて追究させる。そのための導入の1時間目とする。
- ・ 幕末から明治にかけて活躍した三河出身の人物を紹介することによって、身近な三河に関心をもたせるとともに学習の素材を求めさせる。

(2) 使用教科書と副教材

「詳説日本史」改訂版 山川出版社、「新詳日本史図説」浜島書店編集部、プリント

(3) 指導過程

	ねらい	学 習 活 動	支援・ < 観点別評価 >
導 入 10 分	本時の導入として興味関心を高めさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">三河出身の人物で、幕末活躍した人物を挙げなさい。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三河出身の人物で、幕末活躍した人物にどんな人物がいるか考えてみる。 < 予想される人物 > 渡辺崋山 (岩瀬忠震)	既存の知識や理解を引き出すため時間をかける。教科書や資料集の索引を利用させる。 課題学習の目標を理解させながら発問を工夫する。
展 開	19世紀の日本の状況を確認させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">渡辺崋山が生きた時代の日本は、どんな状況であっただろうか。</div>	教科書や図説を利用し、具体的にページを示しながら、幕末

35分	1 列強の接近 2 アジアの植民地化	<ul style="list-style-type: none"> 幕末の状況を、教科書を使い考察する。 欧米列強は市民革命や産業革命を成功させて、植民地や商品市場を求めてアジア進出してきた歴史的背景を確認する。 	の状況を確認（概観）させる。 <知識・理解>（発言） 幕末～明治初期について、世界的視野から事象を把握し、基本的知識を身に付けているか。
	偉人たちの業績を身近に感じさせる。 1 シーボルト 2 ケンペル	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>シーボルトやケンペルが三河で活動した記録があるんだ。 渥美半島の漁夫が漂流した話もあるんだよ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ケンペル著『江戸参府旅行日記』やシーボルト著『江戸参府紀行』、漂流民などの資料（プリント）を読み、人物の生き方を考えてみる。 気付いたことを発言する。他者の発言を聞き自分のまとめと比較する。 外国の人々と触れ合った事実を知る。 	図説を参照させ、補足説明を入れる。 資料を配付し、補足説明をしたり、簡単な感想を求め、学習意欲を喚起する。 生徒の発言を板書する <資料活用の技能・表現> 人々の交流を的確に資料で読み取ることができたか。 分かりやすくまとめ発言することができたか。
	共通点を読み取り、学問・思想及び産業の新たな展開を理解させ深めさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「愛知の郷土史、偉人、祭り・伝統産業」を利用して、幕末活躍した人物を概観してみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 渡辺華山、岩瀬忠震、永井尚志、福谷敬吉、大給恒などをコンテンツで調べてみる。人物のイメージをつかむ。 5人の共通点を考察する。 	コンテンツの利用を具体的に指示する。 <関心・意欲・態度>（発言） 欧米諸国のアジア進出、学問・思想及び産業の新たな展開に着目して関心を高め、意欲的に考えようとしているか。
	グループの組み方をバランスよくさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>興味関心のある人物を選んで、調べるグループを組んでください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 調べてみようとする人物を選ぶ。 	一人の人物（1グループ）につき、生徒約8名を割り振り、バランスをとる。
まとめ5分	次時の学習内容を示し、その準備について、確認させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>幕末から明治の初めにかけて、近代化にかかわった三河出身の人物を調べてみよう。（予告）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 参考図書や資料などの準備するものについて確認する。 	次時の予告をする。

8 反省

- 郷土の歴史に関して、知識量の差（地域差）が顕著にあらわれ、授業展開が難しい。知識関心の高い生徒に対しては発展的課題の提示を必要とした。一方、知識量が少なく興味関心の低い生徒に対しては、支援を工夫する必要があった。
- 「三河」といっても、学習対象が広範囲にわたるため、親近感が薄れる傾向があった。
- 生徒間の相互評価や生徒の自己評価において、評価規準に対するとらえ方にズレが生じてしまったようである。
- コンピュータを利用したプレゼンテーションなどを試みたが、物理的に難しい面があった。
- 郷土史について「興味関心を高めることができた」と答えた生徒が約半数であった。
- 座学より、調べたりする活動を望む生徒も多いた。（「覚えるより調べ学習の方が楽しい」）

9 実践結果

(1) 感想例

「祖父が岩瀬忠震のファンなので、岩瀬の名前は小さいころから聞いたことがありましたが、教科書に彼の名前が出てくるとは少なかったので、特に何とも思っていませんでした。しかし、授業で岩瀬を調べてみて、彼のアクティブ(active)さに驚き、私達の地元から偉人がでていることをうれしく思いました。教科書に載っていることなんて、歴史のうちのほんの一部なんだということ改めて実感しました。意外にも身近なところで日本のために頑張っている人がいることを知ることができてよかったです。」

(2) レポート例

おぎゅう ゆずる 大給 恒

愛知県岡崎市出身
松平家11代 松平 兼護

(1839 ~ 1910)

松平家とは

松平家は大きく分けると家康を祖先とする徳川家から分かれて生まれた松平家と、家康の祖先の代(家康が徳川を名乗る前は松平)に分かれた松平家がある。

松平兼護は後者で、徳川家康の5代前にあたる松平親忠を徳川宗家と同一の祖とする家柄。

松平兼護は徳川幕府において大番頭(1863年)、若年寄(1863年・1865年)、陸軍奉行(1865年)、老中格(1866年)、陸軍総裁(1866年)などを歴任し、当時日本になかった勲章や日本赤十字社などの新しいものを次々とつくっていった。

勲章



(蔦)

松平(大給)氏

1873年(明治6年)にメダル取調御用掛となって世界の勲章を研究した。そして1876年(明治9年)には賞勲事務局の副長官に就任した。(長官は伊藤博文)

文化勲章を除いて、ほとんどの勲章は大給恒によって作られたと言っても過言ではない。

もう一つの五稜郭

函館の五稜郭の他にもう一つの五稜郭があった。

松平兼護は近代軍学に興味を持ち、自ら火炮、築城術を学んだ。幕末に三河から信濃に引っ越し、当時最新の洋式築城術による城郭を造った。

それが1867年に完成した、幕末最後の城郭ともいえる龍岡城五稜郭である。

明治の廃城令により台所を除いて破却され、現在城跡は小学校となっている。

その後1868年には龍岡藩と改め、明治になり名前も大給恒と改名した。

日本赤十字社創立

1877年(明治10年)、西南の役により多数の死傷者が出る中、大給恒は佐賀藩の佐野常民と共に博愛社を創立。副社長となった。

1886年に日本がジュネーブ条約に調印すると翌年には日本赤十字社へと改称された。

感想 > 函館以外に五稜郭があるなんて知らなくて驚きました。

現在でも活躍する日本赤十字社を三河の人が創立したというのは誇りに思います。